

# ☆☆☆ Library Eye 2021 ☆☆☆

第16号 2021年7月1日(木)

発行元 明星中学校・高等学校 図書館



## 【探しものは何ですか?】

「《魅惑の森》から魔法のクローバーを探しだせば、限りない幸福を手にすることができるだろう」

イギリスの高名な魔術師マーリンの言葉を信じた黒いマントの騎士サー・ノットと、白いマントのサー・シドは早速、愛馬にまたがって旅立ちました。その後ノットは、大地の王子や水の女王、木の女王、石の母といった、森を守る精霊達にありかを尋ねてまわりますが、返ってくる言葉は「この森にクローバーなど生えない」という絶望的な答ばかりでした。そして、ついにノットは、最後に出会った魔女モルガナの「マーリンを殺したら、ありかを教えてやる」という言葉にそそのかされ、マーリンを殺しに王宮へともどっていったのです。

一方、シドもまったく同じ精霊たちに会ったのですが、ノットがすぐにあきらめたのに対し、シドは「どうしたらクローバーを生やすことができるのか」とその方法を尋ね、小さな土地に、土、水、日光などの生育条件を整えて、クローバーが芽吹くのを待ったのです。

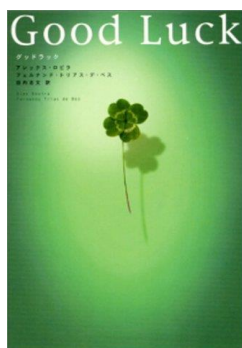
そのとき――。風が枝葉を鳴らし、運命の神ウインドが、キラキラと光る緑色の雨を森中に降らしていくと、シドが耕しておいた土地に、またたくまに、魔法のクローバーが生えだしたのです……。

幸運は、誰の手にも届くところにあるけれども、そのチャンスをつかめるのは、いつも「下ごしらえ」をしている者にかざられる、という感動的なストーリーです。

でも、私は、べつのところに着目しました。

たとえば、この森にはクローバーなど生えない、と大地の王子に言われたあと、シドは、「なぜクローバーが生えないのか、その理由を知りたい」と食いさります。そして、いい土が必要だと知ると、ついにはその土が手に入る場所まで聞きだしてしまうのです。同じ精霊たちと出会っていながら、なにも得ずに、むなしく去ったノットとは大違いです。シドは、このようにして他の精霊たちにも質問を重ねて、自分が知りたいことを手に入れ、それを実現するために、いくつもの困難に立ち向かっていったのです。

ドアを閉められかけても、あきらめずに言葉を投げかけつづける、そのコミュニケーションスキルこそは、多様性に富む21世紀を生きるお子様たちにも必要なものなのではないでしょうか?



## 【ブレーン・ストーミングしてみませんか?】



今、ニューヨークでマスクをしていると、「あの人は、まだワクチンを打っていないんじゃないか」と敬遠されるそうです。これをコロナ・ハラスメントと言います。

私は、この情報を図書館に置いてある『AERA』という雑誌で知ったのですが、新しいことにチャレンジしよう、と思っている人間は、つねに新鮮な風のただなかに身を置く必要があります。学校の中でも図書館は、最も「新鮮」で、「多様」な情報に満ちている場所です。

思考の「ガラパゴス化」を防ぐためにも、もっと、図書館利用が活発化するといいですね。

## 【東京2020オリンピック・パラリンピック開催に向けて】

図書館では、57年前に開催された第18回オリンピック競技大会に関連した資料を所蔵しています。オリンピック・パラリンピック開催に合わせて、これらの資料と共に、スポーツをテーマにした小説&オリンピック・パラリンピック関連本を、入口スペースで展示をしています。

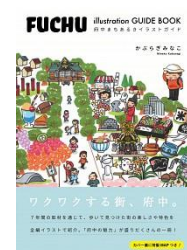
メジャーなものからあまり馴染みのない競技まで、様々なスポーツの小説があります。爽やかな青春ものから、なかにはミステリーもあり、小説を通してスポーツを楽しんでもらえたらと思います。また、ノンフィクションの本も数多くあり、選手の著書や、オリンピック・パラリンピックに関わる人々を紹介した本も展示しています。

『走って、悩んで、見つけたこと』(大迫傑・文藝春秋)では、トップアスリートならではの苦悩・孤独・葛藤との戦いのなかで、著者が見つけ出した思考法が紹介されています。『転んでも、大丈夫：ぼくが義足を作る理由』(臼井二美男・ポプラ社)では、パラアスリートの身体の一部となる義肢装具を製作する義肢装具師の方が、妥協せず情熱やプライドを持って選手を支え、共に夢を叶えようとする姿を知ることができます。



コロナ禍での開催は賛否両論あり、感染拡大が懸念されていますが、安全安心を厳守したなかでの大会を願い、選手の活躍を応援したいと思います。**がんばれニッポン!**

## 【本の紹介～府中を散策してみませんか?】



府中市在住のイラストレーター、かぶらぎみなこさんが書いた新しい本をご紹介します。その名もずばり、『FUCHU 府中まちあるきイラストガイド』(遊泳舎・2021年5月刊)です。東京のほぼ中央に位置する府中市を3つの地域に分け、7年間の取材を通じて、歩いて見つけた街の楽しさや特色をイラストで紹介。お菓子工場の見学ルポ等も掲載された力作(本作紹介文より)で、この本の中で本校が、可愛いイラストで紹介されています!!

かぶらぎさんは、昨年9月に取材で来校された際、「絵にしたい題材がいっぱい」とおっしゃっていました。普段見なれた図書館や制服姿の生徒たち、ノスタルジックな記念館などが絵になると、いつもより誇らしい気分になりませんか? みなさんも是非、手に取ってみてください!

## 【七夕飾り、今年もやっています♪】

毎年恒例になった図書館のイベントですが、楽しみにしてくれている生徒が多く、告知すると同時に、毎日願い事が書かれた短冊が増えていきます。笹は毎年敷地内から、勢いがあって、短冊が飾りやすそうな枝のものを選んでいきます。ちなみに、笹と竹は植物学上では同じ分類に属するので、どちらでも良いそうです。風雨に強く、天に向かって力強く伸びるその在り方に、古くから人々は希望を託すようになったのでしょう。

短冊は記名だったり匿名だったり、切実な願いや微笑ましい願い、はたまた世界平和まで……生徒たちの祈りは様々です。

七夕が終わると短冊は、丁寧にまとめて神社でお焚き上げしていただきます。皆さんの願いが叶うと良いですね。

